

課題解決型授業(アクティブ・ラーニング)に関する調査研究プロジェクト

平成28年度 第1回 推進地域連携協議会

- 1 日時 平成28年 7月19日(火) 13時30分～16時00分
- 2 場所 旭川市立朝日小学校 図書室
- 3 主催 北海道教育委員会
- 4 参加者

<平成28年度ALPS構成員>

旭川市立朝日小学校	校長	中山 雅文	教頭	玉井 一行
	教諭	櫻井 啓子	教諭	北島 裕二
	教諭	木村 伸一	教諭	町田 涼介
旭川市立青雲小学校	教諭	貝谷 雅敏		
旭川市立大有小学校	教諭	石川 憲一		
旭川市立近文小学校	主幹教諭	三浦 一路	教諭	長瀬 剛仁
旭川市立新町小学校	教諭	亀掛川智香子		
旭川市立永山西小学校	教諭	須賀 昌俊	教諭	小林 豊
旭川市教育委員会	主査	常盤 慎一		
上川教育研修センター	所長	小谷 要次		
北海道教育大学附属旭川小学校	教諭	小山 和歌子		
北海道教育大学附属旭川中学校	教諭	嶋田 善行		
北海道教育庁上川教育局	教育支援課長	佐藤 潤一		
	義務教育指導班主査	遠藤 直俊		
	指導主事	石山 輝		
	主査	薄葉 美絵		
北海道立教育研究所	研究研修主事	平山 道大		
北海道教育庁学校教育局義務教育課	主幹	神守 一志		
	主査	佐伯 基		



5 概要

(1) 事業の趣旨について

今後求められる新たな学び（アクティブ・ラーニング）の指導方法等を確立するため、推進地域及び推進地域内の実践推進校（中心校）、連携協力校における取組等の情報を共有するとともに、調査研究における成果と課題を協議し、本事業の円滑かつ効果的な実施に資する。

(2) 【報告】今年度の取組について～旭川市立朝日小学校(実践推進校)

○朝日小と連携校がより協働し、次の2点を重視した研究を推進する。

- ①アクティブ化シートの授業実践化及びアクティブ化シートの改善
- ②実践集録の作成

○各校の取り組みについて

- ・児童の実態把握
- ・指導計画立案～アクティブ化シートA活用
- ・本時案作成～アクティブ化シートB活用
- ・研究授業（授業記録）
- ・研究協議（研究協議記録）
- ・児童の変容把握
- ・改善案作成とアクティブ化シートの改善
- ・実践原稿作成

(3) 【協議】「今後の取組に向けて」

①アクティブ・ラーニングを進める上での留意点(ALPS構成員各校の取組から)

○学級経営の充実「学び合う集団づくり」学習ルールの確立と受容的な雰囲気
～友と学び合う活動

アクティブ化シートを基に「ものさし」の指導場面を工夫

▲導入に時間がかかりすぎてしまう

○教職員全員での共通理解を図る

- ・メンター研修(年代別研修)でアクティブ・ラーニングの視点を取り入れて
日常の授業改善に生かす～強い課題意識、必然性・目的のある課題、目的意識の
継続化や深まり・高まりについて

▲ペアやグループ活動の取り入れでよいと思っっている教員がいる

○国語の授業づくり～子どもたちが学習の流れに慣れてきた

生活とつながる工夫～学校図書館の活用

▲国語では進んでいるが、他の教科でのアクティブ化のイメージがわからない

○基礎的・汎用的能力の育成を柱に国語科を中心に実践

単元構成の工夫や共通課題の場面でルーブリックを取り入れる

～より本時の課題を明確にした授業展開

- ・校内でアクティブ通信を発行し周知を図る

▲どこまで教師がリードし、子どもに任せるか

○算数を中心に授業作りの中でアクティブ・ラーニングを意識してきた

課題の絞り込み(主体的な学び)、スタートラインを揃える工夫

課題と見通しを意識させる

個人思考から集団思考の場面で発問を工夫

▲教科教育の研究と指導方法の研究との両立が難しい

- 今年度から校内研修もアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくり
これまでに理科，算数，書写，道徳，国語，社会，音楽で授業研究を進めている
「授業実践を進めながら研究を推進する」という研修スタイル
 - ・子どもの学びからスタートして，思考の流れを大切にした授業づくりを進める
 - ・子どもに任せる分，教師の準備する力が大切
 - ・積極的なICTの活用を図る
- ▲思考を広げたり，共有したりすることから「個の学び」での整理や概念化が難しい

② 本プロジェクトの成果の普及（協議）

- 各校の取組への共感。色々な方法でのアプローチが必要で、「動」だけではなく「静」の場面も重要。
- 学級経営が中学校でも重要視してきている。課題は，スタート時点では意欲的でも単元末で尻すぼみしてしまうことがある。やらなくてはならない必要感や実生活で役立つ確かな学びが重要。
- ループリックは，課題を達成した姿としてこれからのアクティブ・ラーニングの評価観につながっていくのではないかな。
- 子どもの思考の活性化を促す～目に見える形にしていくには？学習者がメタ認知できることも主体性の面で大切。

③ まとめ

- アクティブ・ラーニングでは、「何を学ぶか」に加え、「どのように学ぶか」であるが，その本質は指導方法や特定の技術の改善ではない。
- 「アクティブ化」という用語は，目的としてとらえられはしないか。アクティブ化シートは，具体的な指導改善へのヒント集ということであろう。
- 授業改善の目的は全ての子どもが目標達成するためである。
⇒それぞれの授業での目標達成をしっかりと確かめる。
どれだけ目標を達成することができたか，どこまで深まったかが重要。
- 全国学力・学習状況調査のB問題との関係も考えて見るとよい。
- 計画－実践－評価－改善を通して，多くの素晴らしい実践と，アクティブ化シートの改善に努め，全道・全国へ発信してほしい。

※11月4日(金)には，朝日小学校でALPS計画による提案授業を公開します。

